

2013年4月1日～2014年3月31日

株主通信

ゼンショーサポーターズクラブ[ZSC]
会員募集中!!

ZSC(ゼンショーサポーターズクラブ)とは

「ZSC」は、株主の皆様とゼンショーをつなぐ架け橋です。ゼンショーからは、経営方針やゼンショーのことがよくわかる旬な情報紙、会員専用通販ショップのご案内などをお送りします。一方で、会員の皆様からご意見・ご要望をお寄せいただき、経営にフィードバックすることにより、双方向コミュニケーションを図り、企業価値と株主還元を高めることを目的としています。



ZSCキャラクター「ゼンショーグン」

ZSC会員だけの特典

- ①「会員情報紙」の送付
- ② グループ店舗で使えるお得な「特別お試し券」の送付
- ③ ZSCオリジナル商品の特別販売(通販)

①情報紙



②特別お試し券



③ZSCオリジナル商品の販売



入会をご希望の方は...

- ①同封の「サポーターズクラブ入会案内ご請求ハガキ」をご返送いただくか、
- ②同封の「株主様お食事ご優待券のご案内」をご確認の上、株主優待券でご入会ください。

会費
入会金
500円
+
年会費
1,000円

(入会は任意です)

〈お問合せ〉ZSC事務局 TEL:03-6833-1630(平日のみ9:00~11:30、13:00~17:00)

写真：ゼンショーグループの夏メニューより



証券コード：7550

ZENSHO



2013年7月、沖縄初出店の「はま寿司」南風原津嘉山店と
沖縄限定メニュー「えび天ロール」

2014年3月期 ゼンショーグループサマリー

- ◆「すき家」、「はま寿司」を中心に189店舗を出店。
連結店舗数は4,792店舗。
- ◆2014年1月、サービス付き高齢者向け住宅などを
運営している有限会社「介護サービス輝」がグループ
入り。介護事業への参入。
- ◆2014年3月、公募増資を行い、267億円を調達。
財務基盤を強化。

目次

トップメッセージ	2
財務ハイライト	4
カテゴリー別レビュー	9
インタビュールーム Q&A	11
株主優待制度	13

トップメッセージ

Top Message

株主のみなさまへ



株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長兼社長兼CEO
小川 賢太郎

当期(累計)は、「すき家」、「はま寿司」を中心に、国内189店舗出店、61店舗退店等により、当期末のグループ店舗数は、4,792店舗となりました。

グループの主力業態である「すき家」では、広告宣伝等によるブランド力強化を行うとともに、新商品の投入による商品力強化を図りました。井ぶり・京風うどんの「なか卯」につきましては、新商品・季節限定商品の投入や既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化と店舗販促の実施により、業績の向上に努めてまいりました。以上の結果、牛丼カテゴリーの当期の売上高は、前年同期比1.0%増となりました。

「ココス」や「ジョリーパスタ」をはじめとするレストランカテゴリーにおいては、メニューのラインナップの強化や、季節メニューの投入等により業績の向上に努め、売上高は同1.5%増となりました。

さらに、「はま寿司」をはじめとするファストフードカテゴリーにおいては、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの強化等に努め、売上高は同33.7%増と飛躍しております。

収益面については、牛肉価格をはじめとする食材価格の高値圏での推移や電気料金の上昇等により、前年対比減益となりました。

経営環境全般については、流通産業全体に及ぶ折からの人手不足等により、「すき家」従業員の負担が増加したことを重く受け止め、店舗の労働環境改善を経営の最重要課題に設定いたしました。これについては、企業統治等の第一人者である久保利英明弁護士を委員長とする第三者委員会を設け、その調査に全面協力してまいります。また、全国を7つの地域運営会社に分社化し、より地域に密着した経営を行うことで、従業員の声を迅速に反映できる風通しのよい職場環境作りを進めます。

我々が掲げる社会インフラとしての役割も、地域に根付いた経営を行うことでより強く発揮できると考えております。

これからも安全でおいしい「食」を途切れることなく提供し続け、地域社会に貢献してまいります。

■連結損益計算書(要旨)

(億円・切り捨て)

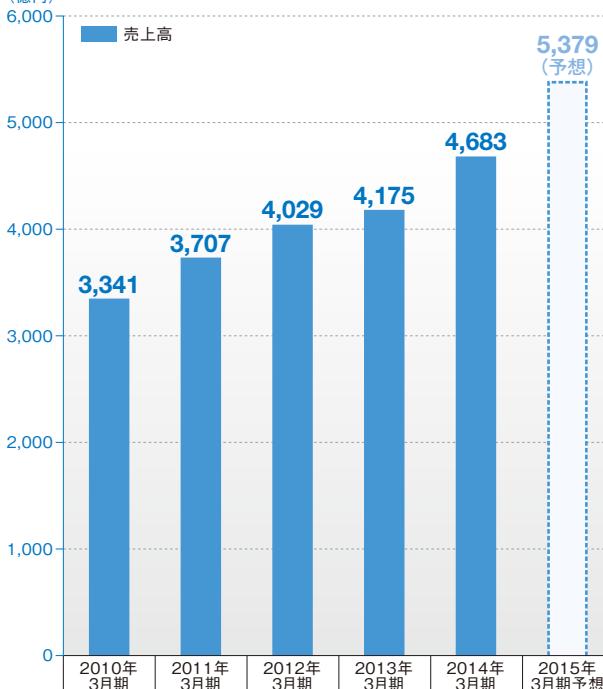
	2013年3月期	2014年3月期	増減
① 売上高	4,175	4,683	+508
売上原価	1,549	1,914	+364
販売費及び一般管理費	2,478	2,688	+209
② 営業利益	147	81	△66
経常利益	138	79	△59
当期純利益	50	11	△39

POINT ① 売上高は対前年で増加

2014年3月期の売上高につきましては、「すき家」「はま寿司」を中心とした189店舗の新規出店およびスーパーマーケットの「マルエイ」や「ヤマダチ」等のM&Aによる新規業態の連結により、4,683億円(前年同期比12.2%増)となりました。

■売上高

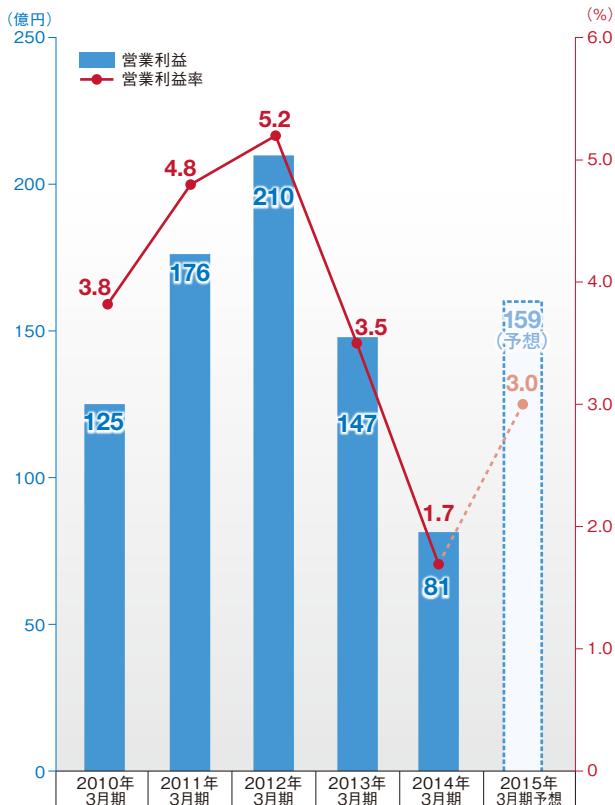
(億円)



POINT ② 既存店売上高減と原価・エネルギーコスト上昇等により減益

出店による増益効果はあったものの、グループ全体の既存店売上高前年比が98.9%であったことや原材料価格およびエネルギーコストの上昇等が影響し、2014年3月期の営業利益は、81億円(同44.8%減)となりました。

■営業利益



POINT ③ 2014年3月公募増資により267億円を調達

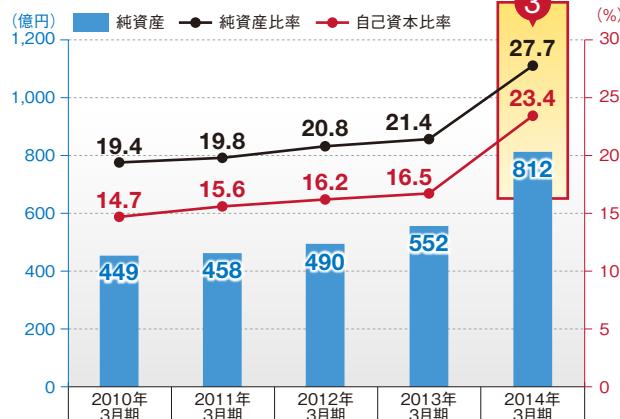
2014年3月に公募増資を行い、2,750万株を新規発行、267億円を調達いたしました。これにより、純資産比率は27.7%（前期末比+6.4ポイント）、自己資本比率は23.4%（同+6.9ポイント）となりました。調達資金は2015年3月期および2016年3月期における新規出店、店舗リニューアルに充当いたします。

■連結貸借対照表(要旨)

(億円・切り捨て)

	前期末 2013年3月31日	当期末 2014年3月31日	増減
資産の部			
流動資産	498	778	+280
現金及び預金	186	443	+256
その他	311	335	+24
固定資産	2,084	2,150	+65
有形固定資産	1,244	1,298	+53
無形固定資産	174	197	+22
投資その他の資産	665	655	△10
資産合計	2,585	2,931	+346
負債の部			
有利子負債	1,452	1,520	+68
その他負債	580	598	+17
負債合計	2,032	2,119	+86
純資産の部			
株主資本	465	722	+257
資本金・資本剰余金	207	474	+267
利益剰余金	258	247	△10
その他の包括利益累計額	△39	△35	+3
少数株主持分	126	126	△0
純資産合計	552	812	+260
負債純資産合計	2,585	2,931	+346

■自己資本及び純資産



■連結キャッシュ・フロー(要旨)

(億円・切り捨て)

	2013年3月期	2014年3月期	増減
現金及び現金同等物の期首残高	185	186	+0
営業キャッシュ・フロー	215	220	+4
投資キャッシュ・フロー	△243	△237	+6
財務キャッシュ・フロー	28	268	+239
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	1	+1
現金及び現金同等物の期末残高	186	443	+256
フリー・キャッシュ・フロー	△28	△16	+11

POINT ④ フリー・キャッシュ・フローは対前年で改善

営業キャッシュ・フローは前年に対して、当期純利益が減少したものの、法人税等支払額の減少、その他流動資産等の減少等により、4億円の増加となりました。投資キャッシュ・フローは、継続的な設備投資を行うも、差入保証金の流動化等により6億円の支出減となりました。その結果、フリー・キャッシュ・フローは対前年で11億円の改善となりました。

2015年3月期業績予想

■連結損益計算書(要旨)

(億円・切り捨て)

	2014年 3月期	2015年 3月期	対2014年 3月期実績	
	実績	予想	前年差	前年比
売上高	4,683	5,379	+695	+14.8%
営業利益	81	159	+77	+95.6%
経常利益	79	146	+66	+84.1%
当期純利益	11	41	+30	+278.8%



Closeup

新規出店と既存店売上高の増加により増収を見込む

2015年3月期はグループで218店舗の出店を予定しており、期末時点のグループ店舗数は5,004店舗と5,000店舗を突破する見込みです。上記新規出店による増収に加え、既存店売上高前年比は連結で105.5% (すき家108.0%) を見込んでいること等により、2015年3月期の売上高は5,379億円 (前年同期比14.8%増) となる見込みです。

Closeup

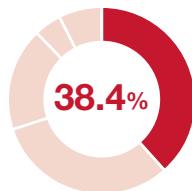
原価及びエネルギーコストの上昇を吸収し、増益を見込む

2015年3月期も原材料価格およびエネルギーコストは上昇することが予想されますが、新規出店および既存店増収の効果に加え、販売費等のコスト抑制に取り組み、マイナス要因を吸収することで、2015年3月期の営業利益は159億円 (同95.6%増) を見込んでおります。

外食事業

① 牛丼カテゴリー

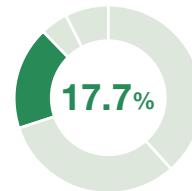
2014年3月期 売上高	前年比
1,799億49百万円	+1.0%



牛丼カテゴリーの年度末店舗数は、109店舗出店、24店舗退店した結果、2,550店舗となりました。「すぎ家」では、「チャプチェ牛丼」（並盛430円）等の新商品の投入が売上増につながりました。「なか卯」でも、季節限定商品の投入や既存商品のブラッシュアップにより、業績向上に努めてまいりました。その結果、牛丼カテゴリーの既存店売上高前年比は96.7%となりました。

③ ファストフードカテゴリー

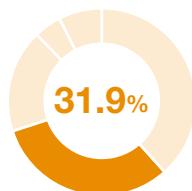
2014年3月期 売上高	前年比
831億30百万円	+33.7%



ファストフードカテゴリーの年度末店舗数は、75店舗の出店を行い、609店舗になりました。「はま寿司」につきましては、積極的な出店により業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの向上に努めてまいりました。その他の業態も商品力の強化を図った結果、既存店売上高前年比は101.6%となりました。

② レストランカテゴリー

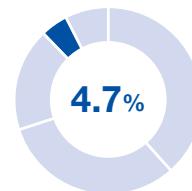
2014年3月期 売上高	前年比
1,492億43百万円	+1.5%



レストランカテゴリーの年度末店舗数は、2店舗出店、24店舗退店、グループ内他業態への転換等を行った結果、1,527店舗になりました。円安による在外子会社の円ベースの売上高の増加もあり、既存店売上高は、100.3%と堅調に推移しています。「ココス」、「ビッグボーイ」、「ジョリーパスタ」「華屋与兵衛」をはじめとした主力業態を中心に、メニューのラインナップ強化および既存商品のブラッシュアップを行い、より一層おいしさの追求をしてまいりました。

④ その他カテゴリー

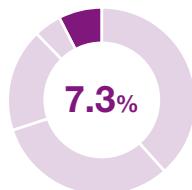
2014年3月期 売上高	前年比
218億75百万円	+39.9%



当カテゴリーの内訳は、ピッツアの製造販売などの株式会社トロナジャパン、醤油製造の株式会社サンビシ、グループ物流機能を担う株式会社グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォームを調達する株式会社グローバルテーブルサプライ等であります。

小売事業

2014年3月期 売上高	前年比
341億80百万円	+134.4%



小売事業の当期売上高は341億80百万円、営業損失は12億3百万円となりました。

小売事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する株式会社マルヤ、株式会社マルエイ及び青果販売等の株式会社ユナイテッドベジーズ等があります。

株主の皆様からよくお寄せいただく ご質問にお答えします。

Q

「すき家」を分社化することで
どういうメリットがあるのか。

A

まず従業員採用においてメリットがあります。

従業員の採用は基本的に全国7社に専門の担当部署をおいて行います。少子高齢化の中で、地元で就職したいという学生が増えている現状を踏まえ、新卒採用についても現地で行います。品川本社での新卒採用との二本立てにすることで、よりきめの細かい採用活動ができるようになります。

アルバイトの採用についても、品川本社で一括して全店のアルバイト採用を行ってきましたが、今後は各地域会社で行います。希望者の受付から面接、トレーニングセンターでの初期教育、店舗での受け入れという一連のプロセスを現地で行うことで、採用と初期教育がより円滑に進みます。

お客様への対応、店舗設備のメンテナンス、お取引先との対応も、各地域会社が主導することで時間的に短縮できます。お客様の様々な反応やご意見についても、カスタマー窓口を現地に置くことで、より機動的かつ迅速に対応できるようになります。

Q

人手不足で人件費が高騰して
いるようだが、その影響は。

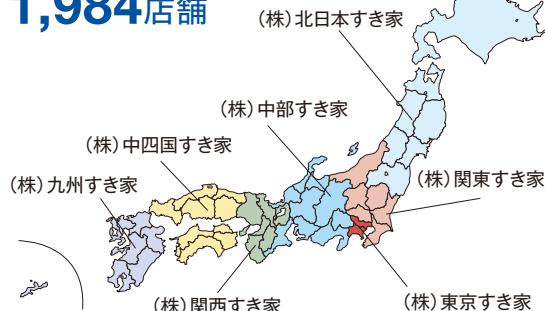
A

折からの人手不足による採用難等により、14年3月期の人件費は前期から8.2億円増加しました。

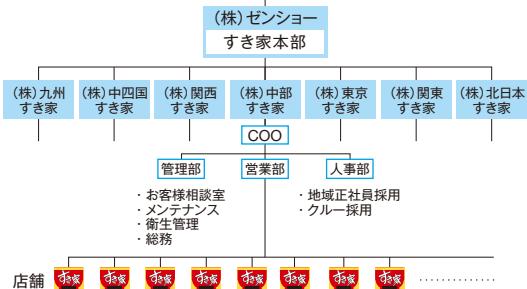
15年3月期も人件費は引き続き上昇する見込みですが、既存店売上高の回復にともなう生産性の向上と、アルバイトの採用強化による残業労働時間の圧縮により、前期比で17.5億円の改善を見込んでいます。

14年3月末店舗数

1,984店舗



(株)ゼンショーホールディングス



Q

食材や電気料金の上昇の影響はどうか。

A

主要食材である牛肉について、14年3月期には経常利益ベースで△24億円の影響を受けました。円安傾向が続くと予想される15年3月期については△20億円の影響を織り込んでいます。

電気料金については14年3月期で21億円のコストアップとなり、15年3月期も14億円のコストアップを見込んでいます。これに対しては今年2月にエネルギー対策室を立ち上げ、グループ全体のエネルギーコスト管理強化を急いでいます。

株主優待制度

当社では皆様の日頃のご厚情に感謝し、100株以上保有の株主の方に、当社グループでお使いいただける「株主様お食事ご優待券」をお届けしています。



100株以上300株未満	1,000円分 (500円券×2枚)
300株以上500株未満	3,000円分 (500円券×6枚)
500株以上1,000株未満	6,000円分 (500円券×12枚)
1,000株以上5,000株未満	12,000円分 (500円券×24枚)
5,000株以上	30,000円分 (500円券×60枚)

ご優待券をご利用いただけるお店



代替品について

300株以上保有の株主様は、代替品交換制度をご利用いただけます。



(代替品の一例)

定められた期限内に未使用で最新の株主優待券(切り離し無効)をご返送いただくと、3,000円1冊分で、ゼンショーのオリジナル商品と交換が可能です。

※詳細は株主優待券同封の「株主様お食事ご優待券のご案内」をご覧ください。

株式の状況(2014年3月末現在)

■発行可能株式総数 432,000,000株
 ■発行済株式の総数 148,600,000株
 ■株主数 179,822名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社 日本クリエイト	43,072	28.99
小川 賢太郎	3,632	2.44
小川 一政	3,631	2.44
小川 洋平	3,631	2.44
ゼンショーグループ社員持株会	2,644	1.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,536	1.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,235	0.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	949	0.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	944	0.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	928	0.62

(注)持株比率は自己株式(23,681株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度：毎年4月1日から翌年3月31日までの1年

配当金受領株主確定日：3月31日および9月30日

定時株主総会：毎年6月開催

基準日：3月31日

その他必要があるときは、あらかじめ公告して一定の日を定めます。

株主名簿管理人：東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先：〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先：0120-782-031(フリーダイヤル)

単元株式数：100株

公告方法：原則として当社ホームページにて行います。電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。

お近くのお店は

「ゼンショーグループ店舗検索サイト」でご確認ください。

パソコン、スマートフォンから

<http://www.zensho.co.jp/jp/shop/>

携帯から 右記QRコードを読み取ってください。

<http://www.zensho.co.jp/jp/s/>

